

令和7年5月22日（木）
岡谷市基本構想審議会

第1回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員（15名）

鮎澤 宗一委員、今井 和奈委員、太田 博久委員、大森 麻衣子委員、木下 敏彦委員、
久保 ます子委員、島田 勇委員、田畑 幸司委員、橋爪 誠委員、濱 章義委員、
増澤 浩文委員、松下 京一委員、三村 智久委員、宮坂 昭男委員、横内 文雄委員

（※欠席者…薩摩 建委員、中山 昇委員、宮下 美佳委員 計3名）

（事務局）

市長	早出 一真
副市長	藤澤 正
教育長	宮坂 亨
企画政策部長	岡本 典幸
企画課長	清水 亮
同主幹	芳沢 幸祐
同主査	関 優介
同主任	小山 健介
地域創生推進課長	日岐 充利

第 1 回岡谷市基本構想審議会 会議録

令和 7 年 5 月 22 日（木）

午後 1 時 30 分～午後 2 時 15 分

岡谷市役所 9 階 大会議室

1 開会

○市民憲章唱和

2 市長あいさつ

本日は、お忙しいところ「岡谷市基本構想審議会」に、ご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

皆様には、市政運営の基本的な指針であります、第 5 次岡谷市総合計画によるまちづくりに対し、多大なお力添えをいただいております、心から感謝を申し上げます。

さて、岡谷市にとりまして令和 7 年度は、「第 5 次岡谷市総合計画 後期基本計画」によるまちづくりの 2 年目として、これまでの取り組みの成果を検証しつつ、必要な改革を実行し、本市のさらなる成長と飛躍のための基盤を築いていく重要な年であります。

総合計画に掲げる将来都市像の実現に向け、一步一步着実に施策、事業を展開してまいりたいと考えております。

本日の会議は、今年度の主な取組の内容などについて、ご説明を申し上げます。

現在実施しております施策や事業をより良いものとするために、委員の皆様には、豊富なご経験や優れたご見識に基づく、ご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げ、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 会長について

副会長（司会）	早出市長ありがとうございました。 続いて、会長について、これまで会長をつとめていただいております、竹澤 幸男さんにつきましては、推薦団体であります、「岡谷市区長会」の役員改選により、岡谷区長の島田 勇委員に引継ぎとなりました。 竹澤 幸男さんの後任であります、島田 勇委員に会長職も引き継いでいただければと存じますが、皆さんいかがでしょうか。 （異議なし） ありがとうございます。 それでは改めまして、島田会長よりあいさつを申し上げます。
---------	---

4 会長あいさつ

委員の皆様におかれましては、大変ご多用のところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は基本構想とは、現役（市職員）の頃、第2次（岡谷市総合計画）から第4次まで、何らかの形で携わらせていただいております、特に第3次は企画課の職員として、基本構想の案の策定に直接携わらせていただいております。

とはいえ、当時とは岡谷市を取り巻く環境も大きく変わってきておりますので、皆様方のご協力をいただきながら、今回はまた違った立場で取り組ませていただきたいと思いますと思っています。

さて、本日の会議では、令和7年度の岡谷市の取組内容を説明していただきますが、より良いまちづくりを進めていくため、皆さんの経験を活かした、多角的な視点や柔軟な発想が必要であると思います。

本日は、皆様とごつくばらんに、意見交換をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、あいさつとさせていただきます。

5 自己紹介

副会長（司会）	会長ありがとうございました。 それでは、本年度新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、委員の皆さんより自己紹介をお願いいたします。 （委員・事務局 自己紹介）
---------	--

6 会議事項

副会長（司会）	それでは、これより会議事項に入ります。 「岡谷市総合計画の策定に関する条例施行規則 第8条」では「審議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。」と規定されておりますので、ここからの進行は会長をお願いいたします。
会長	それでは、議事を進行させていただきます。 会議事項 令和7年度取組内容について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	令和7年度取組内容について 資料：令和7年度取組内容について （資料に基づき説明）
会長	ただいまの説明につきまして、質問等ありましたらお願いいたします。
委員	政策7の商業活動を展開する店舗の市内への呼び込みについて、具体的な取組内容をお伺いしたい。 また、政策8の学生フィールドワーク事業について、具体的な取組内容をお伺いしたい。

事務局	商業活動を展開する店舗の市内への呼び込みについては、ホームページや各種SNSでの情報発信に加えて、首都圏の移住関連イベントにブースを構えて本市の魅力を発信するほか、商業活動に対する支援制度の説明を行い、人の呼び込みに注力している。 学生フィールドワーク事業については、現在、首都圏の複数の大学の先生から岡谷市に関心をいただいております、まち全体を研究材料としてゼミの活動に取り入れていただいている。そういった大学を増やし、本市の課題等を調査・研究していただき、まちづくりの提案や魅力発信、ブランディングにつなげるため、学生がフィールドワークで本市を訪れる際の交通費及び宿泊費の一部を助成するもの。
委員	商業活動を展開する店舗の市内への呼び込みについては、例えば商工会議所で開催しているキッチンカーフェスティバルの参加者に、市内の空き店舗で不定期の小売等を実施していただいたり、あるいは交代で店舗を営業していただいたりして、移住・定住や商業活動の展開につなげる手法もよいのではないかと。ご一考いただきたい。 学生フィールドワーク事業については、50万円の予算を計上しているので、成果物を何らかの形で市民に見える化をしていただきたいと思います。また、再発見された魅力に対して、行政としてどのような対応をとったのか、経過も含めてお示ししていただきたいと思います。
委員	政策1「子ども・子育て支援の推進」及び政策2「福祉の推進」について、各施策を推進するにあたっては、マンパワーに頼らなければいけない部分もあると思うが、物的な資源だけでなく、マンパワーを確保するための予算もしっかり計上されていて、事業として成立させるところまで想定されているか伺いたい。 そもそも、本市の子育てや福祉に関わる人は足りているのか、世の中の産業や企業では人手不足が騒がれている中で、行政サービスにおいては人の確保はどうなっているのかも含めて教えていただきたい。
事務局	人材の確保については、行政も苦慮している。子育て施策においては、特に保育士のなり手が不足している。保育園が運営できないという状況ではないが、総務課でも募集に力を入れて取り組んでいる。 教育施策においては、教員は県の職員になるので、そちらで取り組んでいるが、市内小中学校で先生がいないという状況ではない。 また、福祉施策では、介護事業所の職員が不足していると伺っている。市としても色々なところで声掛けしつつ、福祉の現場で人材の確保ができているか気にしながら、人材育成に努めているところ。
委員	それぞれの施策が、人もしっかりと拡充できて、継続できることを願っている。
副会長	政策10「移住・定住の促進」の就職・移住学生支援事業について、私の会社でも新卒学生の採用が年々厳しくなっており、諏訪地域の自治体が開催する就職説明会の参加者数も年々減っていると感じる中で、令和7年度からの拡充内容を具体的に教えていただきたい。
事務局	令和6年度から、東京圏から市内に移住し、市内企業に就職された学生に対して、就職活動に要した交通費の補助を開始しているが、令和7年度

	からは、新たに移転費も補助対象経費に含めるよう拡充した。 実績については未執行であるが、様々な支援制度を通じて、新卒学生の市内企業就職を支援してまいりたい。
副会長	移転費の補助を拡充したということで承知した。各企業が努力をした結果、呼び込んだ方に対して補助を行うという理解でよいのか。
事務局	貴見のとおり。
委員	政策9「働く環境の充実」の家族にもやさしい職場づくりでU I J ターン強化事業について、具体的な取組内容を教えていただきたい。
事務局	働く人とその家族にもやさしい職場づくりに取り組む企業に対して、市とコンサルティング企業による公的認証の取得に向けた指導を行い、魅力ある職場環境を備えた企業を増やすとともに、企業の採用情報をU I J ターン希望者や第二新卒希望者に直接届くよう効果的な周知・PRを行うことで、企業の人材確保を支援する事業となっている。なお、実施にあたっては国の補助金を活用している。
委員	政策10「移住・定住の促進」について、行政サポートによる移住者数の定義を教えていただきたい。
事務局	首都圏等で開催された移住関連イベントにおいて、相談を受けた方のうち、実際に移住された方の人数を計上している。 なお、現状の67人という数字については、第5次岡谷市後期基本計画を策定した令和4年度の実績であるが、直近の令和6年度においては、46世帯の90名に転入いただいている。
委員	相談を受けた方のうち、移住につながらなかった方の原因を把握されていればお伺いしたい。
事務局	コロナ禍前に比べて、移住希望者は目的をより明確にして住みたい場所を探している。例えば、働く場所があるところ、生活環境が充実しているところ、自然が豊かなところなどが挙げられるが、岡谷市のブースに来ていただき相談を受けた方の多くは移住につながっている。茅野市や原村など、自然が豊かなところに流れることもあるが、6市町村で協力して取り組んでいるので、諏訪地域に興味を持っていただき、移住につなげることが重要であると考えている。
委員	移住・定住促進事業の地域おこし協力隊について、拡充ということで予算を計上しているが、地域おこし協力隊員が1名から2名に増えるという理解でよいのか。
事務局	岡谷市では現在、移住・定住促進事業とブランド推進事業において、各1名ずつ、計2名の地域おこし協力隊員に活動いただいている。 このうち、移住・定住促進事業の隊員について、令和7年度は現行の1名からさらに1名を拡充し、シティプロモーションの強化を図っていく。 なお、本事業は国の交付金制度を活用して実施している。
委員	移住相談の窓口において、実際に移住された方も一緒に対応されること

	はあるか。
事務局	相談業務については、岡谷市の職員と地域おこし協力隊員が窓口となり行政サポートをしている。一方で、移住・定住促進事業の1つとして、移住者と移住希望者が交流するオカヤトークの会を開催し、コミュニケーションや相談の場づくりを行っている。
委員	移住者の方々をある意味で活用して、岡谷市をPRしていただくことで、移住したくなるまちとしてアピールできるのではないかと。 また、以前の会議でも提案したが、移住者の連絡協議会のようなものをつくり、大きな組織の中で移住・定住施策を拡充していくとよいと思うがいかがか。
事務局	以前のご提案を受けて、昨年、副市長以下、庁内の移住に関わる部署の職員と連携して、中京圏で岡谷市をPRするイベントを開催した。その他にも、例えば学生フィールドワーク事業において、県外の学生にSNS等で岡谷市の魅力発信にご協力いただくなど、岡谷市をPRする機会を積極的に増やしてまいりたい。
会長	人口減少が岡谷市の課題であり続けていると思うが、昼夜間人口の数字の捉え方や、市としての考え方をお伺いしたい。
事務局	昼夜間人口に関する統計が手元に無いため、人口減少に対する市の考えをお答えすると、全国的に人口が減少する中で、市としてはそのスピードをなるべく鈍化させていきたいと考えている。特に自然動態の差、つまり死亡数と出生数の差が大きくなっているため、市長も公約に掲げている子育て支援に力を入れており、夜間人口でいえば特に若い世代に転入していただき、岡谷市で子どもを産み育てていただけるよう取り組んでいる。 また、昼間人口でいえば、例えば観光について、以前まで岡谷市は観光地が無いと言われていたが、近年、プチ旅行という潮流があり、横河川の桜や鶴峯公園のつつじの時期に岡谷市に寄っていただけることが増えてきている。大きな観光地としては難しいかもしれないが、少しでも観光客数が増えるよう取り組んでいる。
会長	少子高齢化の中、また他の自治体も子育て支援に力を入れている中で、自然動態を増やしていくためには、岡谷市が独自にアピールをして、今まで以上の施策をやっていかないと難しい。 そうした中で、特に社会動態について、大学進学で上京後、帰って来られる方が少ない状況なので、そうした方々にいかに帰っていただけるかという施策を、予算もあるので難しいと思うが、なおいっそう充実させていただければと思う。
早出市長	人口減少については、大きなところでは国の施策として取り組むべきものと考えているが、限られた予算の中でできる限りの子育て支援や移住・定住施策を展開していきたいと考えている。 全国的に人口が減少する中で、国内で人口を取り合っても仕方がないと思っているので、基本的には産み育てるところにパワーを掛けていかなければならないと考えているが、ご指摘のとおり他の自治体でも子育て支援に力を入れているため、知恵を絞りながら差別化を図ってまいりたい。

会長	ほかにいかがでしょうか。 (発言なし)
会長	ありがとうございました。第1回ということで、今日お聞きしてすぐにご意見やご質問されることは難しいと思いますが、次回も予定しておりますので、色々な方とお話しをする中で、こういったことに疑問を持っているとか、こういうことをしてほしいとか、もしあれば次回にお話しいただければと思いますので、よろしくお願いします。 それでは、以上で会議事項の全部を終了いたします。円滑な議事進行に協力いただきまして、ありがとうございました。
副会長（司会）	会長ありがとうございました。 それでは、その他連絡事項等ありますでしょうか。
事務局	第2回審議会について、8月に、本日と同じ9階大会議室で、内容は「令和6年度までの進捗状況」として、開催を予定しております。日程が確定次第、別途通知いたしますので、よろしくお願いいたします。以上です。
副会長（司会）	ありがとうございました。 その他、委員の皆さんから何かございますでしょうか。
委員	昨年8月21日の第2回審議会において、施策6－2「文化・芸術の振興」のところで、岡谷市のソフト面として文化の紹介について提案させていただいた。結果的に、広報おかやの令和7年1月号の特集記事として、カルチャーセンターと3つの公民館の学習グループの活動状況が大きく取り上げられ、とても嬉しかった。 感謝の気持ちと、もし次の機会があれば、諏訪湖ハイツの活動も盛んなので、ぜひ載せていただきたい。
副会長（司会）	ありがとうございました。 それでは、閉会の挨拶を副会長お願いいたします。
副会長	それでは以上をもちまして、令和7年度第1回岡谷市基本構想審議会を閉会といたします。皆さん、お疲れ様でした。